

平成 30 年度陸奥湾マダラ稚魚分布調査結果について

水産総合研究所では前年に引き続き、2018 年 5 月 16 日、17 日に、青森県陸奥湾の 8 調査点で試験船青鵬丸（65 トン）のオッタートロール海底曳によるマダラ稚魚の分布調査を行いましたので、結果をお知らせします。

地点別体長別の再捕個体数を表 1 に、地点別の分布密度を図 1 に示しました。マダラ稚魚の分布密度は St.1 で 525 個体/1,000 m<sup>2</sup> と最も高く、前年の最高値を上回りました。この他 St.2、St.4 でもまとまって採捕されましたが、それ以外の地点ではほとんど採捕されませんでした(図 1)。

陸奥湾ではマダラ稚魚の分布密度が高ければ、4～5 年後の陸奥湾での漁況が良くなる傾向があります。青鵬丸による調査は今年で 2 年目ですが、2 年続けて稚魚の濃密な分布が確認されたことから、今後も好調な漁況を維持されることが期待されます。来年以降も青鵬丸による調査データを蓄積し、そのデータを基に資源量との関係を明らかにし、漁況を見通すことが出来るよう取り組んでいきます。(資源管理部 三浦太智)

表1 地点別体長別漁獲個体数(マダラ)								単位：個体
体長2mm	St. 1 N=8, 599	St. 2 N=1, 026	St. 3 N=0	St. 4 N=303	St. 5 N=5	St. 6 N=1	St. 7 N=0	St. 8 N=0
30								
32				2	1			
34		7		8				
36				14				
38		7		8				
40		7		34				
42	57	55		61	1			
44	29	41		34	1			
46	172	96		36	1			
48	258	123		34				
50	1, 147	144		34	1	1		
52	1, 720	192		26				
54	1, 806	157		8				
56	1, 920	130		2				
58	573	34						
60	688	27						
62	143	7						
64	57							
66	29							
68								
70								
計	8,599	1,026	0	303	5	1	0	0

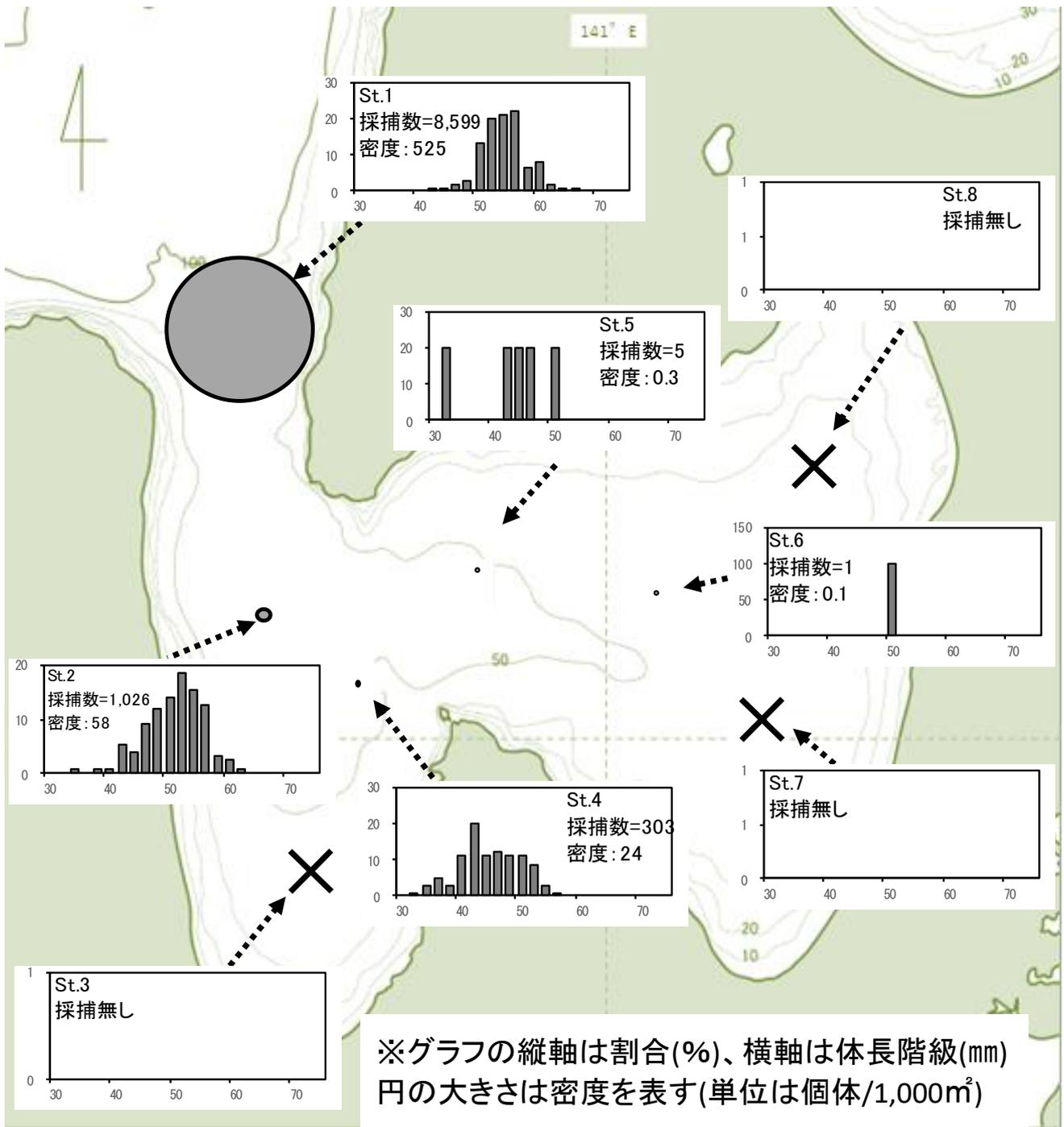


図1 陸奥湾マダラ稚魚分布密度と体長組成結果 (試験船青鵬丸によるオッタートロール)